つながるカレッジねりま　みどり分野

ねりまの森維持管理コース　講座だより

第３回〈草地①〉「森の草本類の特徴と草刈を学ぼう①（手刈り・貴重種保全）」

日時：令和７年６月21日（土）　9：30～12：30

場所：羽沢けやき憩いの森（羽沢3-30）
　　こどもの森拡張用地（羽沢2-31）

ねりまの森維持管理コースとは？

地域の貴重な財産である憩いの森などを守り育てるため、管理活動に必要な知識と技術の習得を目指す講座です。座学と実習を交えて、草刈りや中低木の剪定技術などについて学びます。

練馬区の憩いの森等にみられる希少種や、繁茂に気を付けたい植物、草地の管理方法について学びました。その後、安全管理について確認し、鎌を使った草刈りを行いました。

講義の様子

実習地の観察

オオキンケイギクの駆除

※オオキンケイギク…特定外来生物

鎌を使った草刈り

草刈りの様子

森にとって、大切なもの

講座では、草刈りで出た草や、剪定作業で出た枝、季節の終わりに出る落ち葉を捨ててしまいます。しかし、これらの発生材は森を育む様々な生きものの生命を支える大切な役割を担っています。積み重ねた枝や落ち葉、刈草は、生命を育む家になったり、生きものの食べものになったりします。発生材は、時の経過とともに分解されて更に形を変え、豊かな土壌環境を構成する一部として、草花や樹木の栄養素になっていきます。住宅に囲まれた憩いの森で、全ての発生材を土に戻すのは大変ですが、近隣の理解を得ながら、豊かな環境づくりを実践していきたいですね。

バイオネストづくり

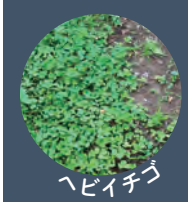
練馬植樹推進会（和田前憩いの森）

今回のキーワード「植物を知る」

草地の管理の際、在来の植物を根ごと引き抜いて裸地にすると、外来種が入ってきてより手入れが大変になる場合があります。例えば、ヘビイチゴが一面を覆っている場合は、草丈は高くならないので、そのまま活かした空間にできるとよいですね。

また、ゾーン毎に草刈りの頻度を変えることで、草丈の違う空間をつくるという工夫があります。草丈が低いところのみだとコオロギの仲間しか来ませんが、草丈が高いところがあるとショウリョウバッタやクビキリギスなども生息できるようになります。

植物は種類が多く、覚えるのは大変です。覚えるコツは、四季を通して観察すること。花や実がある時期に、目印をつける・写真を撮るなどすると、年間を通じた植物の姿を知ることに繋がります。



ヘビイチゴ

株式会社地域環境計画　竹島 佐絵子